



田野浦小学校通信

めざす子どもの姿

□ないせつにする子ども □のびる子ども □うんどうする子ども □らんらんとかがやく子

学力特集号

平成29年 11月 2日
北九州市立田野浦小学校

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

子ども達の学力等について、ご理解いただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・全国平均正答率を下回っていたが、手紙の構成を理解し、後付けを書く等書くことについては、基礎ができていた。 ・言語知識理解と話す・聞く力を問う問題に課題があり、漢字練習の習慣化と話し合い活動を多く設定する必要がある。
国語B	・全国平均正答率をわずかに下回っていた。書くことについては、正答率が高い。 ・適切な言葉遣いで話す問題に課題があるので、表現する場を多く設定し、話型を身に付け、一人一人が話す機会を増やす必要がある。
算数A	・全国平均正答率をやや上回った。小数の乗法、加法と乗法の混合した計算の問題の正答率が高く、数と計算の基礎ができていた。
算数B	・全国平均正答率をわずかだが、上回ることができた。応用問題に対して、最後まで粘り強く取組むことができるようになった。 ・量と測定や数量についての知識・理解が深まり、正答率が高い。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活面や学習面を振り返る「田野浦っ子ががんばりカード」の取組により、「自分で計画立てて勉強をしている。」「宿題をしている。」児童の割合が全国に比べ高く、学習習慣が身に付いている。また、テレビやスマホ等、メディア接触の時間が減少した。 ・学校での学習活動では、友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深める児童の割合が全国に比べ低かった。今後、1時間の授業の中で友達同士で話し合ったり、意見を交換したりする活動を学習の中に多く設定していくようにする。また、学級会や児童会活動等、児童が自治的、実践的な活動を行うなかでも、話し合い活動の充実を図っていくようにする。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・「朝自習」では、既習内容を学習する。また、午後の「田野浦タイム」では、現学年の内容を学習をする。学習内容については、担任、少人数指導教員等が指導を行い、基礎的・基本的内容の定着を図る。他にも、新たに漢字検定の取組みを全校で行う。 ・特に本校では、算教科を中心とした授業改善を行っているため、さらに研究を深める。学習指導方法について、学力向上推進教員と連携しながら、教材研究を行い、指導技術の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「田野浦っ子ががんばりカード」の取組みを継続し、担任が指導の徹底を継続して行い、校長、教頭、教務主任もチェックを行い、称賛する。また、学校通信、学級通信などで児童の頑張りについて、家庭への啓発、基本的な生活習慣と家庭学習の定着を図る。 ・児童の学習課題に沿った宿題や家庭学習をさせる工夫、よくがんばっているノートの提示等を行い、自学への意欲を高める。
